

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103482
法人名	特定非営利活動法人 介護企画あき
事業所名	グループホームあき
所在地	松山市富久町143-2
自己評価作成日	2014.8.19

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

これからも日々、利用者様そして家族様の支えになるよう活動させていただきたいと思っております。また、終末期におけるターミナルケアにも機会があれば引き続き取り組みたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近所の方から野菜等をいただいたり、地域の運動会や文化祭に出かけると、散歩で顔馴染みになった地域の方達が声をかけてくださる。平成済美中等学校の三線クラブの演奏会は恒例となっており、利用者は「また来てくれたね」と生徒との会話が弾むようだ。事業所の駐車場で夏祭りを行っており、職員が屋台を出し、利用者は花火等をして、地域の子供達と交流されている。
 「女子会」「男子会」と名づけ、喫茶店にスイーツを、ファミレスにステーキを食べに出かけておられる。「ドライブに行きたい」「回転寿司に行きたい」と希望された場合、その日のうちに出かけられるよう支援されている。利用者の希望には、スロープの有無、トイレの環境、店員の意見等、職員が事前に下調べしている。お花見、動物園、大衆演劇鑑賞は恒例となっており、写真を見ながら「また行こうね」と話されるようだ。雨や暑い日が続き出かけにくい時は、系列事業所に出かけてゲームをしたり、お弁当やおやつを食べさせて楽しむよう支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームあき

(ユニット名) ユニットA

記入者(管理者)

氏名 白神 敏恵

評価完了日 2014.8.19

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念を実践できるように利用者に対してできるだけ要望に答 えられるように日々努力している。 (外部評価) 法人代表者は、理念をもとに、「心が満たされる幸せ、心が 満足する支援を大切にしたい」と職員ミーティング時に話し ておられ、利用者が希望することは、できる限り叶えられるよ うな支援に努めておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 散歩の際には地域の人に挨拶したり、利用者・職員の顔を 覚えていただくようにしている。地域の敬老会や運動会、お 祭りなどにも参加をし事業所と地域交流を図るようにしてい る。 (外部評価) 近所の方から野菜等をいただいたり、地域の運動会や文化 祭に出かけると、散歩で顔馴染みになった地域の方達が声 をかけてくださる。平成済美中等学校の三線クラブの演奏 会は恒例となっており、利用者は「また来てくれたね」と生徒 との会話が弾むようだ。事業所の駐車場で夏祭りを行ってお り、職員が屋台を出し、利用者は花火等をして、地域の子ど も達と交流されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 近所の方の家族の事で、分からないことや悩みを相談され た時に助言をした。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通じて、社会福祉協議会、市役所介護保険課、包括支援センター、地域の方々、の意見を聞き、それを参考にグループホームサービスのサービスの質の向上や改善に繋げるようにしている。	
			(外部評価) 会議では、利用者の近況や行事報告を行い、地域包括支援センターや市からの注意喚起情報やお知らせ等がある。事業所は「会議の参加者を増やしたい」と考えておられるが、町内会の方やご家族との調整等の難しさがあるようだ。今年度からは民生委員が、2回に1回は会議に参加していただけになっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 行政説明会や研修会への出席にとどまらず、担当者と連絡を取り、とてもよく連携できている。	
			(外部評価) 運営推進会議だけでなく、3ヶ月に1度、市役所支所で町内会・広報の参加者と一緒に、地域の問題や一人暮らしの高齢者について話し合う地域の連絡会が行われている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 原則、身体拘束は行わない。日中、玄関は施錠せず、夜間のみ安全の為に施錠をしている。できる限り拘束しないように努めているが、どうしても身体拘束が必要とされる場合には、かかりつけ医やご家族に連絡をし、同意を得ている。	
			(外部評価) 法人代表者は、職員が利用者に対してちょっと待ってほしいと思う時には、「利用者が理解できるよう理由を話してほしい」と職員に伝えておられ、月2回のミーティング時に、言葉遣い、利用者を見る目(目つき)心のあり様について話し合われている。現在、目の不自由な方と、車椅子を使用している方で外出を強く希望する方がおり、安全対策として入口すぐに階段がある扉について、2ヶ月前から施錠している。職員は、「施錠については話し合いを重ね、利用者の様子を見ながら開錠していく予定」と話されていた。利用者の安全と自由の両面から利用者主体の暮らしの支援について、話し合いを重ねていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者の尊厳を守る介護を一人一人が心がけ、虐待の起こらないように努めている。虐待防止の外部研修を受講した職員が、ミーティングでの伝達研修を行い、虐待防止について話し合う機会を設け、職員一人一人の意識を高めるようにしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員が、松山市の行う市民後見人養成講座を受講するなど制度理解に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、必ず書面を見ながら説明し、重要事項説明書に納得の上、サインをしてもらっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各利用者には担当職員があり、要望や意見に耳を傾け、その思いが生活の中に反映される様にしている。職員は家族が来所された際には話をする機会を持ち、意見や要望を伺うようにしている。 (外部評価) ご家族には毎月、利用者の体調や精神面等についてのお手紙に写真を添えて送付されている。ご家族からお返事の手紙をいただくこともある。利用者から「買い物してきて」と頼まれた場合は、ご家族に連絡し以前の好みをうかがい支援することもある。運営推進会議には、皆に案内状をお出ししているが、他の参加者との時間調整が困難のようだ。実際に事業所を利用する側にあるご家族の意見や要望は、サービスの質向上への取り組みの起点にもなる。今後も、ご家族の声を聞く機会を積極的に作っていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月2回のミーティングを開き、職員全員で意見や提案を出して話し合いを行っている。出された意見や提案は、グループホームの運営に反映されている。	
			(外部評価) 法人代表者と職員は、ミーティング時や週3回程度の代表者来所時に、気になることや希望等について話し合っておられる。皆で話し合って決めることが、仕事の責任を持つことにつながっているようだ。法人代表者は、職員と食事しながら悩み事を聞くようなこともある。職員は、希望を出して研修等に参加されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 休日の指定は平等に聞き入れている。 職場環境・待遇の整備はできている。 また、職員の自己研鑽の研修なども内容を勘案して法人が費用負担し、働きやすい環境を作っている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に関する情報を職員に伝え、参加できるような体制を作り、職員の知識・技術の向上を行っている。研修の内容はミーティングの際に全職員報告を行い、グループホーム全体でのレベルアップに繋げている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などで知り合った他施設の方と研修後も連絡を取り合い、情報交換をしている。他施設の取り組みで良いことは自分の施設でも取り入れている。相互研修は現在行っていない。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に何度かお会いして顔見知りになり、ラポール(信頼関係)を形成し、サービスの利用を開始する際、少しでも不安がないようスムーズにいくように努めている	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族に見学に来てもらい、グループホームでの生活を様子を見ていただき安心していただく、また職員は自ら家族に話しかけ、遠慮して許せない不安や要望なども聞き出し、それを解消することで信頼関係を築くようにしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族等・事業所とで話し合いを行い、本人が必要としている支援を見極め、その内容によって他のサービス(医療等)との連携を図り、対応に努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>不必要な馴れ合いの関係になることなく、それでいて一つの建物の中で暮らしを共にする温かい関係を築くようにしている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は家族に向き合おう、声を聞こうという意味を常に持ち、家族の本人に対する思いを理解することで、共に支えあう関係を築けるように努めている。また、本人の生活様子を欠いた手紙を毎月送り、遠地の家族がホームでの生活を把握し、安心していただけるようにしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>来所された知人や家族など顔なじみの人と楽しい時間を過ごす、ドライブの際にはなじみの場所に立ち寄るなどし、本人が築いてきたなじみの人や場を大切に維持できるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の行きつけの美容室や馴染みの百貨店に出かけられるよう支援されている。ご家族や友人に手紙を出したい利用者には、職員がご本人の思いを聞きながら代筆し、一緒にポストに投函に行く等されている。友人との外出を希望された場合は、ご家族の了解を取り、職員が喫茶店までお連れする等して支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の性格・生活歴を考慮し、支えられるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用(契約)が終了しても、お便りを出したり、ホームにご訪問いただいたりして、良好な関係に努めている。利用者さんへのおやつなどいただくことも。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員が利用者同士の関係を把握し、顔なじみの関係作りと、相手への思いやりの気持ちを持てるように努めている。	
			(外部評価) 各居室に置いている「サービス提供書日々の記録」には「日中の特記事項・体の様子・本人の様子・夜間の特記事項」の欄を設け、職員が日々記録されている。又、「気づきのノート」にも記録している。ご家族や看護師、職員は互いに情報交換しながら、利用者の情報を共有できるよう取り組まれている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族に聞き取りをする。また、普段の生活の中の何気ない会話の中で見つける(裁縫・編み物など)	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 今日の変化は、昨日までの観察を怠っているとできない。一人一人の状態把握は日々努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者を担当制にしている。本人・家族、主治医はもちろん、職員と随時話し合い、介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「援助チェック表」でその日の担当職員が、○・・・×の記号で毎日支援できたかを4段階で評価して、担当職員が毎月、モニタリングを行い、計画作成担当者に報告されている。介護計画は3ヶ月毎に見直しされている。</p>	<p>身寄りのない方やご家族と疎遠な利用者も多く、又、重度化や終末期にある利用者も多い。利用者それぞれの生き方等も尊重しながら、「利用者のこれからの暮らしが充実したものになるような支援」が実践できるような計画作成に努めていかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人が話した会話の内容、様子、職員が感じたこと、対応などを介護記録に書くことで、職員全体での情報共有をはかり、個別ケアにつなげていけるようにしている。また、記録はご家族が希望した際にはいつでも閲覧できるようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の年齢層が幅広いので、本人それぞれのニーズに合わせて支援やサービスの多機能化に努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>民生委員との交流を通じて、近隣の行事への参加など地域資源を教えていただいている。その地域資源を活用して一人一人の豊かな暮らしの実現に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医に関して、本人・家族はその医療内容に安心し、納得していただいている。ご家族が受信できない場合には、職員が病院受診に同行し、適切な医療が受けられるように支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者は2件の協力医の内、いずれかを主治医としており、週1回の往診を受けておられる。協力医は、夜間発熱や体調変化時に相談や往診してくれ、薬剤管理もしてくれている。又、必要時には、ご家族に直接説明して下さる。系列事業所に勤務している看護師が、毎日バイタルサインの確認や利用者の様子を見に来られている。各居室に置いている「サービス提供表日々の記録」を医師、看護師、ご家族も見えており、利用者の現況を共有されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 提携訪問看護ステーションの職員の週1回定期的訪問時に相談等できるようになっている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 提携医療機関より、定期的に(週1)訪問診察に来ていただく事により、主治医や看護職と連携が図れる体制ができている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化や終末期においては、医療機関や家族、事業所とで話し合い、協力しながら、本人の望み・家族の意見を支援に取り入れて、チームとしての体制作りにも努めている。</p> <p>(外部評価) 入居時、利用者やご家族に看取りの希望をうかがっている。終末期と医師が判断した時には、再度気持ちの変化等、希望をうかがっている。開設以来5名の看取りを支援されているが、身寄りのない利用者には市の担当者と相談しながら支援されている。管理者は職員に「利用者のご家族のような意識を持って支援してほしい」と話されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 内部で研修会をしたり、消防署の指導を通じて個々の職員が応急手当や初期対応ができるように努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の避難場所、避難方法は取り決めているが、災害時の地域との協力体制構築には至っていない。地域の消防団に相談しようと検討中。 (外部評価) 移動に介助が必要な利用者にはご家族とも相談して、出入り口近くの居室に移動してもらっている。火災を起こさないことを職員全員で話し合い、「喫煙場所の徹底」「台所の火の元の確認」「年2回のコンセント掃除」に取り組んでおられる。備蓄用の水や簡易トイレも備えておられる。	火災だけでなく、地震等、いろいろな災害も想定して訓練を重ねていかれてほしい。今後さらに、地元消防団との連携等、地域と相談しながら助け合って、安全安心に向けた体制を作っていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者一人一人の意思を尊重し、その人の性格や好みに合わせた言葉掛けや対応を心がけている。また、職員が居室に入る際には、ドアをノックしたり、ご本人に声を掛けてから入るようにするなど、その人の意思やプライバシーに配慮している。また、入浴や排泄等、同姓介護をできる範囲で行いプライバシーの保護に努めている。オムツ等を使用されている方はオムツにタオル等をかけ、オムツが見えないような配慮をしている。 (外部評価) 職員は「感情的にならず冷静に利用者を受け止め、笑顔やユーモアを大切に支援したい」と考えておられる。調査訪問時、他の利用者に聞こえないように、ご本人の耳元で排泄の声かけをして誘導されていた。食事時の台拭きが役割となっている利用者に職員は「助かるわ、無理せんようにね」と声かけされていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活での交流を通じて、職員と利用者との信頼関係を築くように心がけている。言葉でうまく表現できない入居者の方にはジェスチャーで表現していただいたり、表情などをよく見て本人の意思を確認し、一人一人が自己決定できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活のペースを大切にして、その人のペースで一日が過ごせるようにしている。また、予定していなかったお買い物やドライブも、利用者様の要望により、その日急に出かける等できる限り希望に沿って支援できるよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日々の着替えは出来るだけ本人に選んでいただいている。自分で選ぶのが難しい方には、職員がその人に似合う装いを本人と考え、選ぶようにしている。また、女性の方には髪を染めたりなど、お洒落が出来るように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は、一人一人のペースに合わせた食事の介助を行っている。担当職員は利用者の好みなどを聞きだすなどして、メニューに反映できるように努めている。	
			(外部評価) 献立は法人代表者が利用者に希望を聞きながら作成されており、旬の(大州産)野菜や米(高知産)を使用されている。利用者は揚げ物がお好きで、唐揚げのリクエストが多いようだ。ミキサー食・刻み食は1品ずつ皿に盛り、他食材と混ぜられないように工夫されている。自宅での食習慣を継続して、代表者手作りの梅干とらっきょをお出ししている方もあり、調査訪問時、「必ず、梅干とらっきょをご飯に乗せてくれるんよ」と利用者の方は喜んでおられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の毎食の食事量や一日を通じての水分量などを記録し、栄養や水分が不足していないか確認をしている。摂取量が少ない利用者には、好みの飲み物や食べ物を用意するなどして、本人がすすんで食事が摂れるように努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きの声かけ、ケアを行い、個別記録している。個別で歯ブラシもその人に合ったものにかえている。寝たきり等で、歯磨きが困難な場合は処方してもらったイソジンガーグルをガーゼに浸して口腔清拭をしている。また、必要に応じて歯医者よりケアを受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 一人一人の排泄パターンや習慣をチェックし、随時トイレへの声かけ誘導することで、排泄の自立に向けた支援を行っている。オムツ介助の方も可能な場合は、トイレで排泄していただけるように努めている。</p> <p>(外部評価) 男性職員が女性利用者を介助する際には、羞恥心を考慮し、利用者の前に立たない、きちんと戸を閉める、必ず声をかけ確認する等、職員間で確認し合って支援されている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 便秘気味な方には水分を多めに飲んでもらうなど、出来るだけ薬に頼らず、自然排便が出来るように努めている。また、ヨーグルトや食物繊維の多いものを食べたり、散歩に出かけて歩いて、腸の動きが少しでも活発になるよう取り組んでいる。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 週2回の入浴日を決めているが、本人の希望や状態などに合わせて曜日や時間の変更を行っているが、必ずしも本人の希望通りにならない場合もある。</p> <p>(外部評価) 週3回程度入浴できるよう支援しており、重度の利用者が増え職員2人で介助して全員の利用者が湯船で温まれるよう支援されている。「一番風呂がいい」と希望される場合は、希望に沿えるよう対応されている。恥ずかしそうにする利用者には、希望を表さない場合でも同性介助で支援されている。入浴を嫌がる場合は浴室を温泉と見立て「温泉に行こう」と誘ったり、職員が入れ替わり、時間を置いて声かけて対応されている。入浴剤を入れて楽しむ利用者もある。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 一人一人の生活のリズムの把握に努め、急速ができるように支援している。日中は居室にこもりがちにならず活動的に過ごしていただくことで、安眠ができるように努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者個別に薬箱・処方箋ファイルを用意し、職員は薬の種類や効能についても把握するように努めている。薬は職員が管理・チェック用紙に記入し、飲み忘れや誤飲がないように努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者本人の希望で、スポーツ新聞の定期購読、ようかん、梅干などの嗜好品の取り寄せなどを行っている。お芝居を見に行ったり、お寿司を食べに行ったり、女子会をしたりと気分転換の支援もしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人のその日の希望にあわせて、散歩などを行っている。買い物や行事レクリエーションなども精力的に行っており、戸外に出かけられ活動的な日々が過ごせるように支援している。 (外部評価) 「女子会」「男子会」と名づけ、喫茶店にスイーツを、ファミレスにステーキを食べに出かけておられる。「ドライブに行きたい」「回転寿司に行きたい」と希望された場合、その日のうちに出かけられるよう支援されている。利用者の希望には、スロープの有無、トイレの環境、店員の意見等、職員が事前に下調べしている。お花見、動物園、大衆演劇鑑賞は恒例になっており、写真を見ながら「また行こうね」と話されるようだ。雨や暑い日が続き出かけにくい時は、系列事業所に出かけてゲームをしたりお弁当やおやつを食べて楽しめるよう支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した光で、お金が自由に使えるよう支援している。管理できる場合は、お財布を持たせている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が心地良く過ごせるように、自然の光他風を取り入れた落ち着いた雰囲気作りを心がけている。時期の飾りつけや花でグループホーム内においても季節感を感じられるように努めている。	
			(外部評価) 居間を挟み2ユニットが分かれており、自立度の高い利用者は、2ユニット一緒に居間にてゲームをしたりテレビを見て過ごされている。居間の中央に水槽があり利用者が、「魚が赤ちゃんを産んだよ」と職員に教えてくださるようだ。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者同士でテーブルを囲みお茶が楽しめるよう食事の時は違うテーブルの配置にして、工夫している。お互いのユニットを自由に行ったり来たり出来るようにしている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人・家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を置くなどし、今まで過ごしてきた環境に似る事で安心した生活が送れるように努めている。	
			(外部評価) 居室には、手作りカレンダーや観劇の役者さんと一緒に撮った写真を飾っておられた。テレビがお好きな利用者は昼食後、居室で横になってテレビを見て過ごされていた。掃除は、主に職員が行っているが、こだわりのある利用者には職員がご本人の了解を取ってから掃除をされている。人形をいくつか飾り、赤ちゃんのように大事にしている方もあり、抱っこするとご本人は、安心をされるようだ。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室には手すりを設置し、廊下もシルバーカー、車いすどちらでもゆっくり移動できるようにしている。と入れた居室には場所が分かりやすいように印をつけたりし、一人一人の目線や立場を尊重し、出来る限り自立した生活が送れるように支援している。	
			(外部評価)	